

今回のインタビューは、海田警察署長に着任されました武田元成さんをお願いしました。

聞き手／下岡 憲国 委員



地域の皆さまと手を携えて安全・安心なまちづくりを

海田警察署長 武田 元成さん
たけだ もとなり

まず海田警察署長に就任されて、海田町の第一印象など、ご感想をお聞かせください。

海

田町といえば、JR、国道が交わっており交通の要衝というイメージがあります。

海田警察署での勤務は初めてですが、着任して旧山陽道の街並み付近を歩いていますと、伝統ある家屋があつて、歴史を感じます。また、瀬野川河畔は整備され、絶好の散歩コースで、水辺には鳥たちが遊んで自然豊かな町という印象を持ちました。

振り込め詐欺、ひったくり、児童虐待など弱者対象の巧妙・卑劣な犯罪が目立ちます。防ぐ有効な手立てはないものではないでしょうか。

県

警ホームページ、マスコミなどを通じて、悪質な手口などを紹介していますが、ご自身の心の中には、自分は被害に遭わないという気持ちがあるのではないのでしょうか。自分もひょっとしたら被害に遭うことがあるのではという気持ちをもっていたきたいと思っています。

また、なんといっても地域住民のコミュニケーションが大切です。コミュニケーションが醸成されれば、このような卑劣な犯罪の相談や話題にもなっていない、犯罪に対する目がいろいろなところで光り、それが地域のもつ治安維持力になってきます。

交通事故は減少傾向にあるようですが、高齢化社会を迎え、お年寄りが関係した事故はあまり減っていないような気がします。現状と対策をおたずねします。

歩

く時は、横断前には左右の安全を確認しよう。遠くでも車が来ていたら、通り過ぎるまで待とう。

自転車の時は、交差点に入る時に速度を落とすか、止まって安全を確認しよう。進路を変えるときは、後ろの安全を確認しよう。

夜間は、明るい目立つ色の洋服を着よう。「反射材」を付けよう。ドライバーからは歩行者などがあまり見えていないことを理解しよう。こういったことに注意していただきたいと思います。また、ドライバーの方

には「高齢者を交通事故から守る」というやさしい気持ちを持って運転をお願いしたいと思います。

安全・安心なまち

づくりのためには、おまわりさんと地域住民が連携して防犯活動に取り組むことが大切です。この点も含め、警察活動全般について抱負をお聞かせいただけますか。

お

つしやるのとおりです。さらに海田町や民間の力も不可欠です。

現在、海田町管内では、防犯ボランティア七団体百九十五人が活動中で、安全・安心な地域のコミュニティの醸成に大いに役立っています。

以前勤務していた警察署で実践したことなんですが、「制服の力」すなわち街頭警察活動によ



り、犯罪を大きく減少させることができました。海田警察署においても、そこかしこにおまわりさんがパトロールし、警戒の目を光らせ、町民の方々に安心してもらえるようにしていきたいと思っています。

本日は、着任早々ご多忙の中「住民と共に歩む開かれた警察」の思いを語っていただき、ありがとうございました。今後のご活躍を期待しております。